

# 蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆

近藤龍弘

〒940-0052

長岡市神田町1丁目4番地10

TEL.(0258) 32-2811

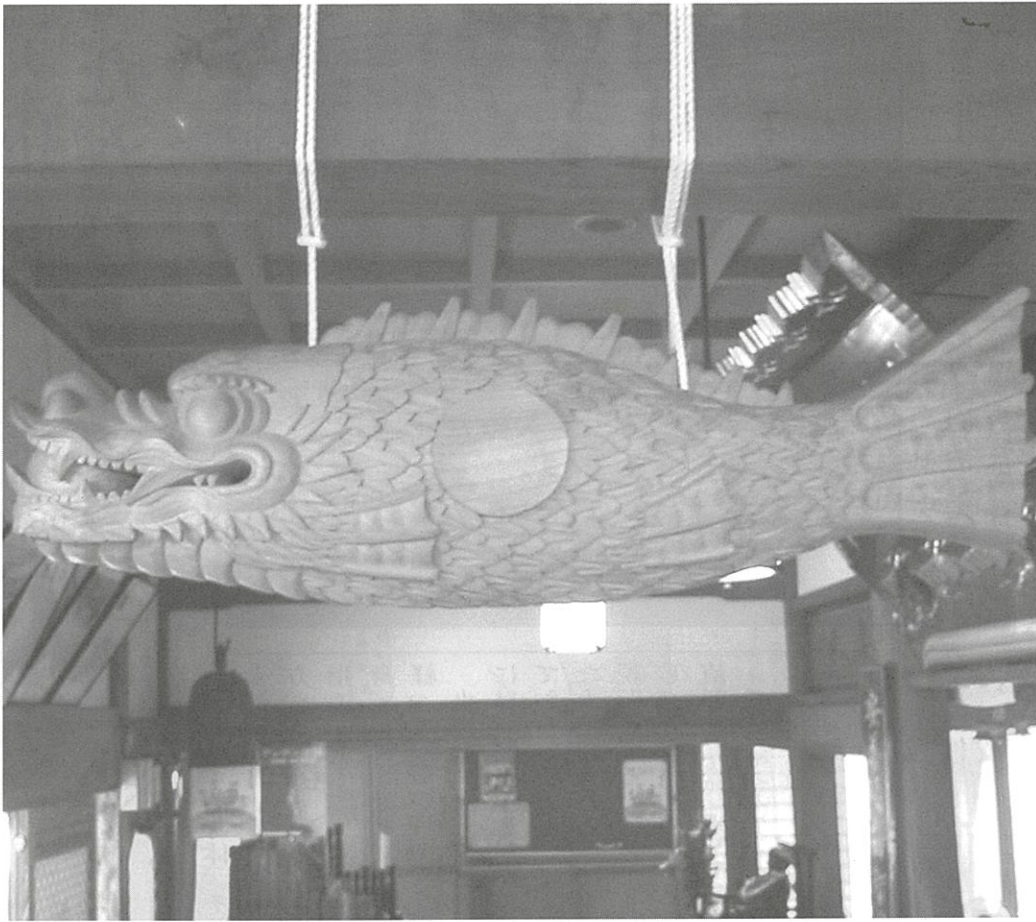
◆スタッフ◆

小林国二 小林善秋 高橋潔 加瀬由紀子

室賀清輝 近藤マリ子 近藤善信

後援・株式会社アサヒ

印刷・(株)北越時報社



安善寺本堂に掲げられている「栲」

ご家族の皆さままでご覧ください

## 「栲」伝説の魚を見習い、 助け合って世界平和を 暑中お見舞い申し上げます

翠巖 龍弘

「盆は嬉や別れた人も晴れてこの世に会いに来る」今年もイラク、北朝鮮問題、年金国会、六月の台風上陸、その後の猛暑、参院選公示とあつという間に半年が過ぎ、盂蘭盆の季節にな

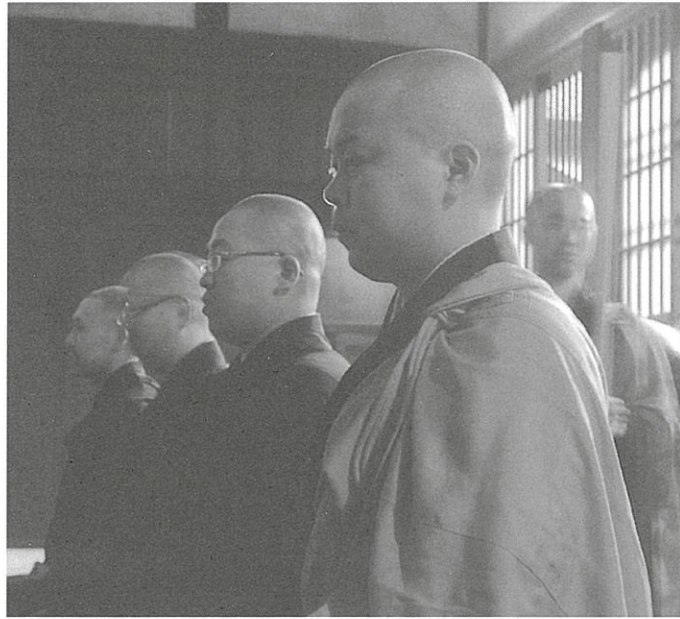
りました。忙しい現代を生きる私共も、お盆には心静かに先祖を偲び、多くの先祖の命を受け継いだ今日の自分の尊いいのちを再認識し、ご先祖さまを迎え家族共々過ごしたいものです。上の写真は、今年六月の大般若法会の日寄贈された「栲」です。本来僧堂や齋堂の露地につり下げられている木製の鳴らし物で、頭は竜、体は魚の形をしており、齋粥の食事の合図をする時に使われています。他に、魚鼓、飯栲、木魚、魚栲と呼ばれることもあります。現在、お経を読む時に使う木魚は、江戸時代に黄檗宗（日本禪宗三派の一。本山は京都府宇治市にある黄檗山万福寺。開祖は中国からの渡来僧、隠元隆琦）の渡来とともに広く使われるようになったものです。木製で外形はやや円形の竜頭魚身をなし、首尾に竜頭が互いに曲がって相面し、腹部を膨張させてありますが、これが魚形を用いることについては、魚が昼夜眠らず、醒めていることに托して修行者

が寝を忘れて道を修する警めとしたものといわれていますが、異説もあり、明らかではありませんが、それ以前に木魚といえは「栲」のことでした。この栲は、中国の伝説の魚をかたどったものといわれています。その魚は、どんなに小量の食料であっても、必ず仲間全員とわけ合って食べたといわれています。そこで食平等を旨とする仏道修行においては、この伝説の魚の精神を忘れることなく食事ののぞむということから、この鳴らし物が使われるようになったもののようにです。現在地球上では、戦争に苦しむ飢えに苦しみ、亡くなっていく人が大勢おられます。私共は、伝説の魚を見習って、同じ二十一世紀を生きる世界中の人々に関心をよせ、日本だけの平和、豊かさだけを願うのではなく、世界中の国々が平和で、少しでも豊かになるよう、それぞれの国の文化や宗教が守られるようお願い、少しでも行動したいものです。

仏の十号「如来。応供。正偏智。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏世尊」

# 【大本山總持寺 雲水日記】 ただひたすら坐る

近藤真弘



總持寺に上山してちょうど一年くらい経って私は参禅寮という寮に入りました。この寮の名前になって『参禅』というのは坐禅または坐禅修業のことです。總持寺では定期的に参禅会というかたちで、安善寺でも行っているような一般

の方々向けの坐禅会を行っています。毎週日曜日に行う坐禅会には常に八十人程の人が参加されており、その中で初めて参加される方が毎週十人ほどいます。私共参禅寮員は、毎週初めて参加される方に、僧堂の簡単な規則から叉手・合掌と

いった基本的な身体、そして坐禅堂において坐禅のやり方を基礎から指導します。指導すると言っても私自身、坐禅を始めて一年しか経っていない時期でした。坐禅会に来られる人の中には、何十年も前から通っておられる方もいて、そんな人のおられる中で坐禅の説明をするのはとても緊張し必死に坐禅のことを学び直しました。

このような定期的な坐禅



以外にも私のいた時期には会社の新入社員研修や大学の新生研修など団体で泊まりの坐禅会も多くありました。泊まりになると、坐禅指導のほかに食事作法や翌日の朝のお勤めなど教えることが多く、自分自身が一年間教わってきた事を、初めて指導する立場に立ち、また違った形で修行することができました。

私が参禅寮にいた期間中の六月中旬には本山の修業僧と、希望して参加される一般の方々で行う『伝光会攝心』という集中坐禅期間があります。この攝心というのは年に二回あり今年も



六月十四日から十八日まで五日間勤められました。

普段總持寺は作務や勉強、お檀家さんの法要や宿泊参拜者など忙しく、朝と夜以外は落ち着いて坐禅することも仮まなりません。しかしこの攝心期間中は法要や参拜はなく、朝四時から夜の九時まで

食事もすべて坐禅堂で行います。最初の二日くらいはただ坐っているだけなので、とても眠く坐禅を組みながら寝てしまい警策をいただくことも多くありました。しかしだんだん日が経つ

につれて足が痛くなくなってきた眠気もなくなりまして。そこからが本場の坐禅でただひたすらに坐ります。

最終日の夜九時に終りを告げる大開静おおいひらけが堂内に響きわたり、そのときには坐りとおした達成感を味わえました。

一人で坐ろうとしてもたぶん続かないと思います。皆で坐れる今、この修行期間を大切に、これからもまだ何度か迎える攝心を実りあるものにしていきたいと思えます。

# 「庭を」食べる

小熊正志

## ◆「心」の戦争

「日本は今、平和ですか?」第5回米百俵賞を受賞したガーナ人のアウニさんの質問に対し「もちろん、日本は平和ですよ。戦争がないし…」と答えた私。するとアウニさんの再質問が飛んできた。「戦争がなければ、平和なの? 自殺者が毎年3万人以上。それでも平和ですか? 平和ってなんですか?」……私は、

答えに窮して立ち往生。戦争もなく、豊かで華やかな消費社会の日本にあって、5年連続で自殺者数3万人以上という事実は、今まさに「有事」である事を示していると思います。

日本は、世界一の長寿大国・世界有数の経済大国でありながら、何故「自殺大国」になってしまったのでしょうか。戦後六十年間、物の豊さに心を奪われ、縄文以来の農耕民族として培ってきた「日本の伝統文化」

「日本人としての心」を見失ったことが大きな原因の一つだと思います。平和な時代のおかげで、深刻な「心の戦争」が続いているけれど、それを乗り越え、未来を切り拓くカギは、日本人が忘れかけている日本人らしさの中にあるのではないかと。「山川草木悉有仏性」：自然の全てに「いのち」や

「たましい」を感じ、対話する日本人特有の自然に対する感性(アニミズム)にあると思えてなりません。

## ◆「夜」をつくりたい

子供は本来、外で汗まみれになって友達と群れて遊びながら成長していくもの。ところが今の子どもたちはほとんど外遊びをせずに、

テレビやビデオ等の映像メディアと長時間向き合っており、子どもたちの体の状態は、世界でも最悪となっております。例えば視力。特に問題なのが、左右の視力差が0.3以上ある子供が増えている事。これはテレビなどの平面画像ばかりを見続けたために、対象物を立体的にとらえるという目の機能が育たない為に起きたといわれております。

又、テレビ漬けが、脳にもたらす悪影響も指摘されています。テレビゲームをしている間は、感情や論理的思考をつかさどる「前頭前野」が働かない。しかも長時間「テレビ漬け」になっていると「前頭前野」が鍛錬されず、キレやすいとの指摘もなされています。

こうした子どもたちに必要なのが、「外遊びの空間づくり」、「ノーテレビデー」の取組みと「月に一度電気を消す」運動。テレビと電気を消すことで逆に見えるものがある。月、星、虫の音、風のそよぎ……。そして家族の対

話が増え、家庭が変わる。

◆「庭」を食べる

社会の基礎単位である家庭が、「家」と「庭」で成り立っているのは何故なのだろうか。家で夜露をしのぎ、庭に汗して山川草木の命をいただく。戦後六十年、私達は家の快適性のみを追い求めてきました。個室化が進むことで家族の対話がなくな

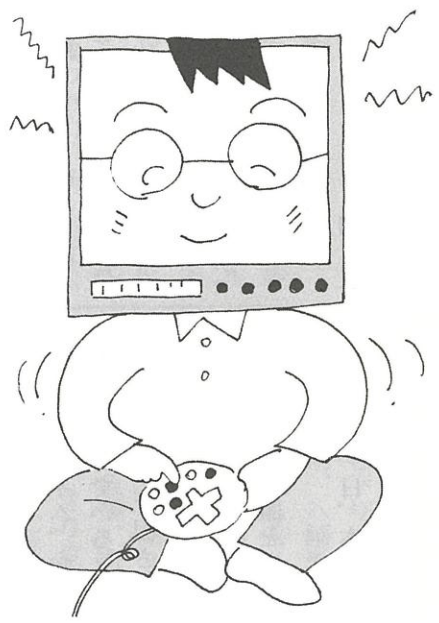
り、縁側が消えることで庭に出て自然と対話する日常性が失われ日本人らしさが萎えてしまった。しかし発想を変え、春夏秋冬の「旬の命」を庭からいただく、新しい家庭の未来形が見えてくると思います、きっと。

◆昭和二十五年七月一日生まれ。上川西小、上川西中(現江陽中)、長岡高校、神奈川大学経済学部を経て家業の酒類販売店「おぐまや」を経営。

平成十五年五月から長岡市議会議長。平成十七年五月までの議長としての任期中、合併、新市建設、議会運営という難しい舵取りを先導する。

寄稿してくださいました小熊氏は小生の古い友人です。高校時代から何かに燃えていると言ったファイトマンです。今回この紙面に登場する友人シリーズの3人目、皆快く引き受けてくれ助かります。皆様のご意見や何なりのお投稿をお待ちしております。(編集 小林 拜)

開経偈文「無上甚深微妙法。百千万却難遭遇。我今見聞得受持。願解如来真实義」



# 十八体の小さなお地藏様が 守ってくださいます

近藤マリ子



「墓地が明るくなりまし  
たね!」お地藏様が可愛い  
ですね!」最近墓参に來ら  
れる方々がくちくにそうお  
っしゃいます。

昨年九月に墓地奥の樺十  
五本を伐採したら墓地全体  
が明るく、広々とした感じ  
になりましたが、老木で何  
時倒れてもおかしくなかつ  
た木とは言っても生命ある



ものを倒したのですから、  
その切り株に小さな可愛い  
十八体(以前伐採した木も  
あった為)のお地藏様を檀  
信徒の方々のご寄進で安置  
いたしました。

何年前かに伐採した駐車  
場奥の樺の切り株の周りには、  
草が生い茂りどう見ても  
条件の良い場所ではなかつ  
たのですが、ご寄進くださ  
った方が、きれいに草取り  
をし、家の庭に咲いている  
色々な種類のお花の苗を持  
ってこられ、今ではお花畑  
の中に可愛いお地藏さま  
が、まるで微笑んでいるか

のようにみえます。

どのお地藏様も一体一体  
みんな顔の表情が違います。  
そしてどのお地藏様もみな  
な本堂に向って可愛い手を  
合わせているのです。今度、  
お墓参りにお出での折にご  
らんになって下さい。

これからもお地藏様は樺  
の木々を供養してくださいさ  
ると同時に、墓参の方々をも  
守ってくださる事と思  
います。

## 読者からの

## 便り

隅から隅まで読んでいます

二戸市●会田克彦

跡継ぎが出来ておめでと  
うございました。

いつも季刊誌を見るのが  
楽しみになりました、家内  
流の隅から隅まで楽しむ方  
法はこうなんです。

まず、最初に読む記事は  
「べこのひとりごと」次いで  
「読者からの便り」「雲水日  
記」最後は第一ページの龍  
弘方丈の話なんです。



隅から隅まで見ると安善  
寺の様子がわかるような気  
持ちになります。いつの間  
にか加瀬さんとも知り合い  
のように錯覚したり、安藤  
さんにお礼したくなったり  
してくるから不思議です。

何時までもこの季刊誌が  
続くことを期待し、近くに住  
んでいればお寺の坐禅会な  
どいろんな催しにも参加し  
たいと思っっているのです。

## 小さな心温まる演奏会

M・K

もう昨年の事になります  
が、「KAKA笑の会」のご縁

でチェンバロの演奏会に行  
ってきました。蔵を改装し  
た狭い会場で二十五名もい  
ないくらいの観客、初めて  
聴く澄んだ音色、楽器に描  
かれた綺麗な花の絵柄。

休憩時間は蔵の二階の喫  
茶室でタイム。お隣同  
士で話が弾んでいると、演  
奏者の八百板正巳さんの  
「そろっといいでしょう  
か?」の声に「こういうの  
いいね!」とは誰とはなし  
に出た言葉。

日曜日の日、本当に小  
さな小さな心温まる演奏会  
でした。

# 奥の正方寺参拝とみちのくのくの旅 (一)

鈴木タマエ

平成十六年五月十一日から二泊三日の三日間で、安善寺様主催の旅行に参加させていただきました。方丈様のお経に合わせてもらい、皆がバスに乗車した。朝はちよつと雨模様で心配しながら七時に寺院を出発しました。

高速度を鳶温泉へ、関越常磐、東北道と北へ六百五十八キロの長丁場も無事終わり、黒石インターチェンジに着く頃には、まあまあの旅行日和になりました。黒石からは一般道路。沿道はリンゴの花に交じって桜の花が。初春の香りを十分に満喫しながら走り続けると、いつしか残雪が見え始め、路の臺、水芭蕉が点在し、遅い北国の春を感じさせていました。



み鳶のいで湯に身をば清めて」と歌にも詠まれたと云う、山間の一軒宿「鳶温泉」が近くなった感じがする。

到着時間が意外と早かったため、旅装をといて沼巡りコース、七つのうちのひとつ鳶沼まで散策する。若葉に囲まれた水面は非常に美しく、旅の疲れを忘れさせる。温泉は二十七度といわれ、浴場は源泉の真上にある。

山から五キロ程上がると緩やかな流れではあるが、場所によっては流れが三様に変わると云う三乱の流れ。

右方には数枚の岩が組合わり一枚の壁を創生している屏風岩。そして左方の岩戸に着く。ここで小休止。

大きな一枚岩がカツラの太木からできた岩屋。女盗賊「鬼人のお松」の根城だったと云う伝説を聞きながら、自然の美を生かし十分整備された遊歩道を、澄み切った水と緑を愛でながら暫く散策する。

自然の形が美しい溪流沿いには、阿修羅の流れ、九十九島、旅人が駒を止めて歩いたと云う言い伝えがある駒止橋、流れの形を見事に形容した名称の滝、雲井の滝や九段の滝など十四を数えると云う。中でも銚子大滝が最大の見所と聞く。

バスで約一時間、子の口の水門着。この水門は溪流の水量調整のため夕方には水門をストップさせると云う。溪流の自然美を満喫し乗船場へ向かった。北の玄関口、子の口より

遊覧船に乗船。湖は摩周湖と同様のカルデラ湖で濃い藍色の湖水は青森、秋田両県にまたがっている。

船は東湖より豪快な景観の御倉半島の二百メートルにも及ぶという絶壁の千丈幕を見ながら湖で一番深いと云う中湖、そして女性的な景観の中山半島、国定公園なるが故に人手を加えない岩と森林の醸し出す自然美を十二分に堪能し西湖へ。国定公園十五周年を記念し作られたと云う高村光太郎作の「乙女の像」を左手に見ながら休屋へ到着。所要時間一時間であった。大変見応えのある船上からの風景が脳裏に刻み込まれた。

そして船から降り、車などが観光の妨げにならないように配慮し作られたコースを通り、発荷峠の展望台へ。先ほどの眺めと違い、今度は陸上から湖を眺望する。湖の北入口になるのが標高六百七メートルの発荷峠。正面に十和田カルデラの外輪山から、その後方に南八甲田の一部が眺められ、すばらしい眺望であった。

高速道十和田インターより盛岡インターへ。インターチェンジを下りて本日のお昼の休息地、八幡平赤松茶屋馬太郎へ立ち寄る。ワゴン蕎麦を初めて体験してみた。おいしかった。昨日は雲の切れ間から見え隠れした岩手県の象徴、岩手山の山容がくつきり見られた。雄大な眺めで、富士山にも値する美しさでした。標高二〇三八メートルのこの山は、東側の稜線が富士山に似ているため南部富士とも呼ばれ、古くは神仏の対象として崇められたと云う。岩手山は活火山で平成十年には火山性の地震が続ぎ、現在一部ルートの登山制限がされているとのこと。

昼食後は小岩井農場へ。この農場は明治二十四年に創業者三名(小野・岩崎・井上)の頭文字を取ってスタートした国内最大級三百ヘクタールの民間の総合農場とのこと。のどかな自然を象徴するかのような大牧場は牛や羊が草を食む牧歌的な世界であった。

以下、次号へ続く

第三回 『KAKA笑の会』

精進料理を楽しみました



大変だったけれど楽しかった精進料理

(厨房より)

風薫る五月二十八日、大本山總持寺で典座和尚を勤めておられる小金山泰玄老師をお迎えして、本山の精進料理を作って戴きました。

胡麻豆腐だけは本山上で作って持ってきて頂き、後はすべて地場産の山竹の子、山独活、山蔞、水菜、アスパラガス、

蕪、人参、山竹の子、落花生和え(蕪、きゅうり)、車麩の油揚げ、伽羅蔞、葛きり(沖縄産黒蜜掛け)、蕎麦掻きお汁粉。

御老師の指示に従い、気を引き締めて手を洗う。まず、時間の掛かる伽羅蔞作り、前日より水に浸しておいた山蔞を酒、醤油、砂糖を加え火に掛けコトコト中火で煮ること四時間、その間ベテラン主婦揃い手際良く材料をひたすら切る。

きゅうり、南瓜、人参、油揚げ、車麩、蕎麦粉、吉野葛、小倉餡等を用意しておきました。さすが典座和尚様だけあって、九品の献立はすぐ決まりました。

【献立】

胡麻豆腐、湯葉ご飯、山竹の子と油揚げの味噌汁、独活の梅肉煮味噌炒め(アスパラ、水菜、菊)、煮物(南瓜、油揚げ、

「料理は舌で覚えるもの」と云われ、一品一品素材の味を生かした素晴らしい精進料理が出来上がりました。目の回る忙しさでしたが、実行委員一同やりとげた充実感で一杯でした。(五十嵐・安藤)



人も食材も料理に有り

内藤 博子

四月中旬頃「旬の素材を大切にしたい精進料理を味わってみませんか」と声を掛けて頂きました。しかも安善寺様で小金山泰玄老師のお料理が頂けるというので、即申込みしました。さて当日、お料理を待ちながらもお隣さん、お向か

いさんと話が弾みました。運ばれて来た器の品は、しっかりと取られたおだしとの味と食感、良く引き出された風味が口の中で広がり、ひとはしひとはし味わいながら次から次へとお箸は進みます。炊き合わせのキャラブキ、姫竹の子、かぼちゃ揚、そして人参の細切りは何とも可憐で素材同士のまとまりが良く、関心しきりでした。かぶとキユウリの和え物の味付けは何だろうと、楽しい会話が続く中、ふと子供達が小学生だった頃のこととが浮かんできました。我が家の食卓は和みの場で特に夕食は賑やかでした。今日の煮物は何と何が入っているか? 焼き魚は何の魚? 使った食材全部で何品? と次から次へとクイズです。学年が上がるにつれ結構魚も見分けられるようになり、「今日はサンマでしょ。匂いで分かったよ」とニコニコ顔で頂きます。食卓を囲むと学校のこと、友達のこと、楽しいこと、困っていること...、様々な話が飛び出し、子供

お別れ

の等身大の姿を見るには食事の時間が一番でした。精進料理を頂きながら、改めて素材の持ち味を生かし、引き出すこと、「人も食材も料理(食)に有り」などと感じた日でした。ほんとうに、ごちそうさまでした。

(平成十六年三月〜六月末)

八木マスイ様 三月二日寂

小千谷市

矢澤ヤイチ様 三月十六日寂

長岡市中島

諸橋八重子様 四月十五日寂

白根市

結城ヒデ様 五月十三日寂

長岡市中島

遠藤愛子様 五月十八日寂

長岡市新保

ご冥福をお祈り申し上げます。

「冬ソナ、見てる？」と友人からの電話。「ソナいなもん、知らんわ」「これ見ないど恥じよ。わたしはジョン様に影響受けてハンゲルの勉強始めたんだから！」

この友人はついこの間まで「ラストサムライ」の渡辺謙がカッコいいとふれまわっていた。その前はベッカム様だったし：おつれあいは呼び捨て、愛犬とイケ面の

しれない。「ユジンさん、あなたは今何を考えていますか？」と恋人に優しく問いかける男性が、人気のジョン様ことペ・ヨンジュン。今時の日本の若者は、「だつたら何？」とか「やつばそんなところ？」なんてのたまうんだろなあ。新入社員教育も、きちんとあいさつや意思表現できるように時間がかかるご時世だ。

テイラーの美男美女が演じた悲しいロマンスに、戦後間もない人々は、辛かった記憶を重ねたのだろう。

一九三九年秋。第二次世界大戦下のロンドン。一人の軍人がウォーター・ルー橋にたたずんでいる。彼は二十数年前の第一次世界大戦の日を思い出す。その悲しい恋の物語がこの映画の柱である：ナチスの空爆を

の差は七メートルもあって川は様々な表情を見せる。橋の欄干にもたれて見渡せば、ヨーロッパで一番高いという観覧車、ロンドン・アイが左手に望める。現代建築の市庁舎や近代的な高層ビルも見受けられるが、殆ど

を忍ばせる。

パリが「芸術の都」だとするならば、ロンドンは「知の都」だろうか。赤い二階建てバスがひっきりなしに走るピカデリー・サーカス近くのクラブ前では、燕尾服に山高帽子、ステッキの紳士たち

パリにはたくさんのお美術館があるが、ロンドンには博物館が数多い。旧植民地から運び出した財宝、と言ってしまうとそれまでだが、散逸したり、破壊されることがもなく目の当たりに見学できることは、ありがたい。

とりわけ私が心奪われたのは、大英博物館のアッシュリア・展小室である。二十メートル以上もある、レバノン杉の扉。乱獲によって今やこの地上から、レバノン杉の巨木は姿を消してしまった。よくぞここに残っていたと感激と同時に、この二千年余の間に消費した膨大なエネルギーを嘆かすにはいられなかった。レバノン杉の扉は黙して何も語らないが、怒りに打ち震えているようにも見えた。

# 旬歌 愁灯

[その五]

## 別れのワルツ(蛍の光)

加瀬由紀子

ヒーローには敬称、というのも解せないが、どれどれ、と乗ってしまうこちらが悪い。かくして、土曜日の夜更け、テレビをオンにする。なまるほど。要約すると、冬の情感あふれる韓国の街を背景に、ゆつたりと展開する清らかなラブストーリー、悪く言えば優柔不断のすれ違いドラマ。今の日本ではこの類が新鮮なのかも

昔、「女湯が空になった」(銭湯に行かずにラジオを聞くので)という逸話が生まれた「君の名は」というラジオドラマがあった。「冬のソナタ」は韓国版「君の名は」ともいわれている。ときにアメリカ映画「哀愁」の日本版として菊田一夫が作ったのが「君の名は」ということをご存知だろうか。ヴィアン・リーとロバート・

避けるため防空壕に駆け込む時、二人は出会う。(続きはレンタルビデオで...) キヤンドルクラブで二人が踊る『別れのワルツ(蛍の光)』のシーンは、今見てもウルウルモノの名場面だ。

五月にロンドンに行く機会があり、テムズ川に架かるウォーター・ルー橋を渡るウオーター・ルー橋を渡った。川は満潮時で海からの逆流が始まっていた。干満



は百年、二百年経った古い町並みが続く。思い思いに塗りなおし、手を入れた建物、ペランダの咲き乱れる花々や、セイウトチノキ(マロニエ)に彩られ、暮らす人々の豊かさ、快適さ

が憩っている。エレベーターやドアの前では、「マダム、アフターユー(お先にどうぞ)」と声がかかるのも、大英帝国の栄光と歴史が生み出す『ゆとり』を感じさせ、心地よい。

映画「哀愁」の空襲サイレンの場面も今は昔。橋を後に、海底トンネルをパリまで三時間、国際列車ユーロスターの発着するウォーター・ルー駅に向かった。イングランドに別れを告げる「蛍の光」のメロディをかすかに耳にしながら：

梅雨入り宣言したのに、毎日真夏日のような日々が続いています。この春はお寺もなんだか慌しい雰囲気でした。四人の子供達の内三人が移動という何年か前と同じような事があり、その上親戚で二件の結婚式。前号ではあと一年くらいと書いた

ペコ大蔵日記 パートII

# まだまだ私は元気です



ペコのひとりごと

お兄ちゃんもあと三年は本山に残る事になりました。お客さまの出入りも多く本当に忙しそうですが賑やかです。それに玄関前もお寺の中もお花がたくさん飾ってありとてもきれいです。玄関の前はお檀家の方が丹誠して作って下さったきれいなお花の鉢が置かれ、お寺を訪れる方々の気持を和ませてくれるのです。そしてその鉢のお花が残りそうになると、又別のお花と取り替えて下さり、最近はお花が絶える事がありません。本当に有難いことです。綺麗なお花を見て怒る人はいませんかからね！

私も最近、「さくらは私に危害を加えない」と言う事がようやく解かって来たので、何かを要求する時は大きな声でお母さんと呼べるようになりました。そうすると声を聞きつけて部屋から出てきて、お母さんの手から直接私に食べ物を食べさせてくれるのです。そんな時もさくらは全然吠えもせず私の存在を解かっているのかいないのか？ 知らん振りして

います。早い頃お母さんが、ある人にお願いで私とさくらの肖像画を描いてもらい、とってもよく描いているので廊下に飾ってあるのですが「ペコちゃん亡くなったのですか？」と聞かれた方がおられたとか。最近、廊下があまり滑るので転んでしまいました。まだまだ元気です。だからもう暫く皆様にひとり



**お便り原稿用紙**

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

ごとをお伝え出来るとおもいます。暑い夏に向かい皆様もお体をお大切になさって下さい。

## 編集 雑感

六月も下旬になり暑く感じられる日が多くなってきました。如何お過ごしでしょうか。夏になると必ずテレビ等で「ゆうれい」番組や「死の世界」の特別番組が企画されます。「あの世」は私も含めてどなたも行った事が無いと思いますが、これ人生終わりかと思つた体験は少なからずしておられると思います。私も数回あります。私の体験を一つ書かせてもらいます。

それは私が二十代の頃、県内のダム工事に従事していた時です。ダム工事では川を塞ぎ止めるため川の水を一時的に山の中にトンネルを掘り、迂回させる工事の最中でした。夜中の〇時頃トンネルの切羽と呼ばれる所で測量をしていた時、あと数分

で終わると思われたとき、突然発破を知らせるサイレンが鳴りました。切羽の中にはダイナマイトが相当量充填されていて、サイレン終了後直ちに爆発するようになってます。私達は持つている物すべて投げ出し抗口めがけて一目散に走りました。「火事場のバカ力」ではないけれど百メートルをオリンピック記録位で走つたと思います。走っている時は、正直これで人生終わりかと思いましたが、走馬灯のように過去が思い出されよう余裕などはなかったです。無事抗口に出た途端、恐怖心が沸き地面に座り込んでしまいました。原因は抗内に入る時の名札を掲げていたにも拘わらず、発破抗夫が見落としサイレンを鳴らしてしまつた事でした。発破ボタンを押す抗夫が名札を見て即中止したため私達は「あの世」に行かずに済みました。私は病気で入院し、生死をさまよう迄はなかつたですが、健康になった時改めて生きていて良かったとの思いはどなたでも共有していると思います。その時の気持ちを常に忘れず人生を歩んでいく事が大切なのではないのでしょうか。

室賀清輝

沐浴偈文「沐浴身体。当願衆生。身心無垢。内外光潔」

第二十七号、秋号は平成十六年九月十日(金) 発刊予定です。